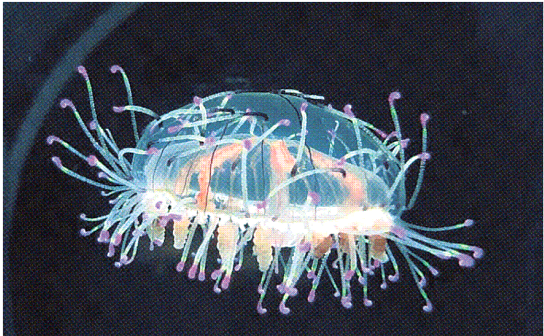
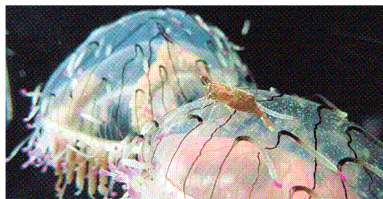
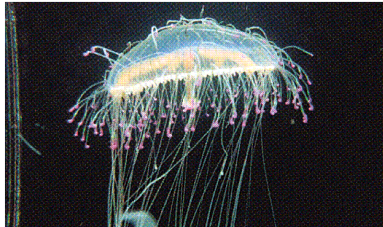




(左上から時計回りに) 夜になると触手をのぼすハナガサクラゲ▷ピンクや黄色に輝く色鮮やかなハナガサクラゲ▷ハナガサクラゲの傘ののって共生しているモエビのなかま

## ハナガサクラゲ

学名 *Olindias formosa*

- 分類 淡水クラゲ目ハナガサクラゲ科
- 大きさ 直径約10センチ
- 分布 本州中部から南西諸島
- 食べ物 小魚やエビなど
- 特徴 透明な体に色鮮やかな触手が

数本あり、一部の触手は傘の上までのびている。傘の縁には長くのびる触手が数十本あり、餌を捕らえるのに使う。昼間は海底に沈み、海藻の影などでじっとしているが、夜になると浮かび上がり、流れるように移動する。モエビという小さなエビのなかまが共生し、傘の上ののっていることがある。水族館の水槽では水温約20度ぐらいで、半年間ほど生きる。

## きれいだが毒針がある

英語では「flower h」ハナガサクラゲは成長すると直径10センチ程度になり、色鮮やかな触手があります。ハナガサとは祭りで使われる花飾りのついたかさのこと。

あまり泳がずおとなしいです。 at jelly」と呼ばれます。花がさのように、体の上にある触手はピンクや黄色に美しく輝いていま

すが、触るのは禁物。刺胞と呼ばれる毒針で刺されると、ひどく痛みます。目に見えない大きな刺胞は、体中にたくさんあります。春になるとハナガサクラゲが多く流れてきて、定置網に入ることがあります。水揚げ後も刺胞は残っていて、仕分け作業中にうっかり触ってしまうと大

## おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から

変痛いので、嫌われています。一方、水族館では見た目もきれいで、飼育しやすいので人気者です。水槽では流れに身を任せて漂っています。夜になると縮めていた触手を長く伸ばし、網を張ったように広げます。触手に触れた小さな魚に刺胞で毒を注入し、動けなくして食べま

す。全長10センチぐらいの魚でも丸のみしてしまいます。数時間後、消化できなかった骨などをまとめて排泄します。

水族館ではいろいろなクラゲを繁殖させようと研究しています。ハナガサクラゲのポリプ(子ども)は確認できていますが、とても小さいので餌をなかなか食べません。水槽や餌を工夫して立派なクラゲが育つように、取り組んでいます。(展示課魚類展示係主任・築地新光子)

水族館ではいろいろなクラゲを繁殖させようと研究しています。ハナガサクラゲのポリプ(子ども)は確認できていますが、とても小さいので餌をなかなか食べません。水槽や餌を工夫して立派なクラゲが育つように、取り組んでいます。(展示課魚類展示係主任・築地新光子)